

福知山のふもとに広がる美しい緑。その森はどうしてできたのでしょうか。



福岡藩の林政策と直方

江戸時代木材は燃料や建築などに用いる大切な資源でした。福岡藩では財政困窮のため、三代藩主黒田光之の時代に、国中の竹・樹木を伐採して借金返済にあてました。そのため山林は荒廃し、藩はその後植林をおしすすめていきました。

福岡藩では山奉行を置き、山林の管理と植林を受け持ちました。直方には享保 14 (1729) 年頃、実植奉行が置かれ、天保 14 (1843) には旧直方藩邸跡に藩営の実植所が設けられました。1町3反9畝(約14000㎡)の実植所で杉やヒノキ苗を育てました。また3名の百姓に仕組畠として委託実植をさせていました。用材として杉、ヒノキ、桐、椿、薪・炭用としてクヌギ、樫などを植えました。また藩の財政を豊かにし、百姓の窮乏を救うため、ハゼの栽植がすすめられました。

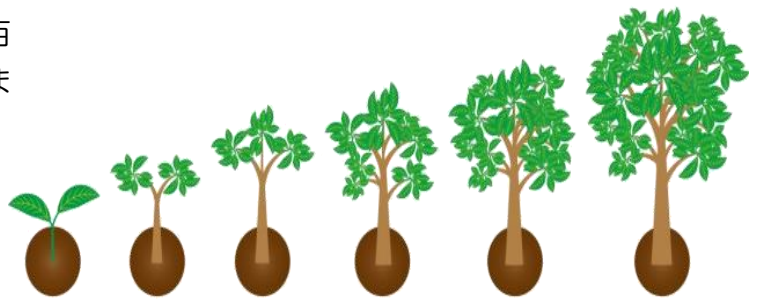
直方市史 上巻 NL219ノ
頓野合併記念誌 NL219ノ



上頓野とその近村の苗木作り

享和 3 (1803) 年ごろ、上頓野村の安田太右衛門が杉、ヒノキ、柏の実生苗の方法を確立し、山野に栽植し増産に成功しました。

その後上頓野村と隣接する頓野、感田村にも苗木の栽培が広がりました。記録によると、享保 20 (1735) 年から天明 2 (1782) 年の47年間に永満寺村・畑村では、20万本以上の植林がされています。頓野・上頓野では明治、大正時代にいたるまで苗木が主な産物となり、暮らしを支えてきました。



直方あの頃

昭和 55 年～昭和 57 年

林芙美子文学碑が建立された 1981 年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。また、この年は、どんな年だったのでしょうか

昭和 55 年(1980 年)

6月 市内小学校で米飯給食が始まる
この年、漫才ブーム

昭和 56 年(1981 年)

8月 直方駅開業 90 周年
この年、スペースシャトルが初飛行

昭和 57 年(1982 年)

7月 大雨により商店街が水浸しになる
この年、TV「笑っていいとも」放送開始



郷土の人々

やすだ たえもん
安田 太右衛門



頓野、上頓野地域の、苗木栽培の元祖といわれています。太右衛門は、享和3(1803)年、杉やヒノキの実を蒔いて発芽させ、苗を作る方法を編み出しました。その功で時の藩主から褒章を受け、山ノ口の役職に命じられました。太右衛門はその後、研究と実験を重ね、できた苗木を山野に植林し、樹木の増産に励みました。文化13(1816)年には藩に苗木を献上し、十数町に移植したことが記録に残っています。没後も、明治15(1882)年に農商務省から追賞され紋章入りの杯を、また明治45(1912)年にも銀杯を贈られています。

太右衛門の実生苗の方法は、頓野地域の人々に受け継がれ、苗木の生産量は増大していきました。嘉永2(1849)年の記録には上頓野村、頓野村の百姓が育てた杉の苗木40万本を、来春の植林用に買い上げてもらうよう藩に願い出たが聞き入れられず、前借を願い出たとあります。苗木生産が農民の大事な収入源であったことがわかります。明治になってからも苗木栽培は続き、明治期には6000万本以上も出荷し、売り上げは当時の価格で13万円、現在の価格で十数億円にのぼりました。

『直方市史 上巻』 NL219ノ
『頓野合併記念誌』 NL219ノ
『直方歴史ものがたり』 N219ノ



はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

今回は、5月に直方谷尾美術館で写真展が開催され、来場者数1万人超えと大盛況だった、直方出身の写真家・鋤田正義さんの資料をご紹介します。

『SUKITA 刻まれたアーティストたちの一瞬』 N740ノ

『鋤田正義写真展「ただいま。」』 N748ノ

『THE SHOOT MUST GO ON SHOOT MUST GO ON』 740.2ス



直方市立図書館

直方市山部 301-1 コミュニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>